

TOKYO NATIONAL MUSEUM



博物館でアジアの旅 2022

調査ノート



TNM 東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

2022 年 9 月発行

アジア大発見！

Journey through Asia at Tokyo National Museum
Big Discoveries in Asia

「博物館でアジアの旅」の今年のテーマは『アジア大発見!』です。
19世紀末から20世紀初頭に、アジアの各地から日本へもたらされた作品たちは発見のエピソードにあふれています。そんな作品たちと日々向き合う研究員のノートには、、、気づきの書き込みがたくさん!
この調査ノートを通して、発見の楽しみを追体験してみたいかがでしょうか。
そして、実際に作品を見て気づいたことを書き残してみましょう。
展示されている作品にもまだまだ発見が隠れているはずです。

【調査ノートの使い方】

これは、研究員の調査ノートです。
ノートに書き込まれたメモを手がかりに、
作品をじっくり観察しよう!

① 作品を探す

4-5ページの東洋館フロアマップをもとに、目的の作品を探そう



② 作品を観察する

研究員のメモを参考に、実物を詳しく見てみよう

③ 新たな「発見」を書き込む

実際に見て気づいたことを空欄に書いて
ノートを完成させよう

※書き込みの際は、展示品を汚損する可能性があるボールペン、万年筆、毛筆、シャープペンシルなどのご使用はご遠慮ください



④ スタンプを押す

館内に設置されたオリジナルスタンプ
を見つけて押そう (3作品)

「発見」タイトル
調査日
展示室

ペリオが敦煌莫高窟の蔵経洞で発見!
2022年 月 日 ()
東洋館2階3室

古い掛軸の形式

の水分のように移を
通したのだろう



鏡文を書く欄が空白になっている
あとから供養者の名前を記入できるよう、
あらかじめ空けてあるのだろう

二菩薩立像 (TA.190)
Two Bodhisattvas
絹本着色・二菩薩・18世紀
中国・敦煌莫高窟蔵
1層 藏経洞 べリオ発見品
一応有印付(「発見」)

ポール・ペリオ (1878-1945)
フランスの東洋学者。1908年に
敦煌莫高窟の蔵経洞でこの絵を発
見した。



敦煌莫高窟蔵経洞の中で調査する
ポール・ペリオ

スタンプ欄

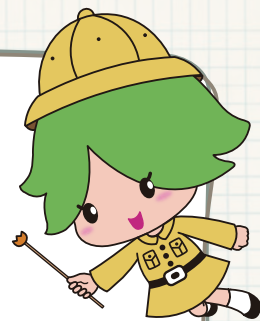
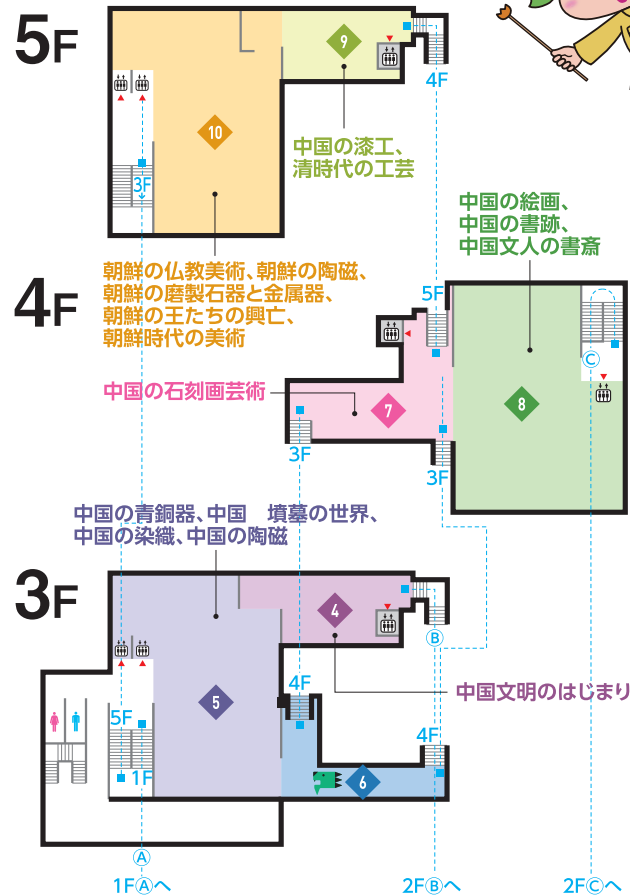
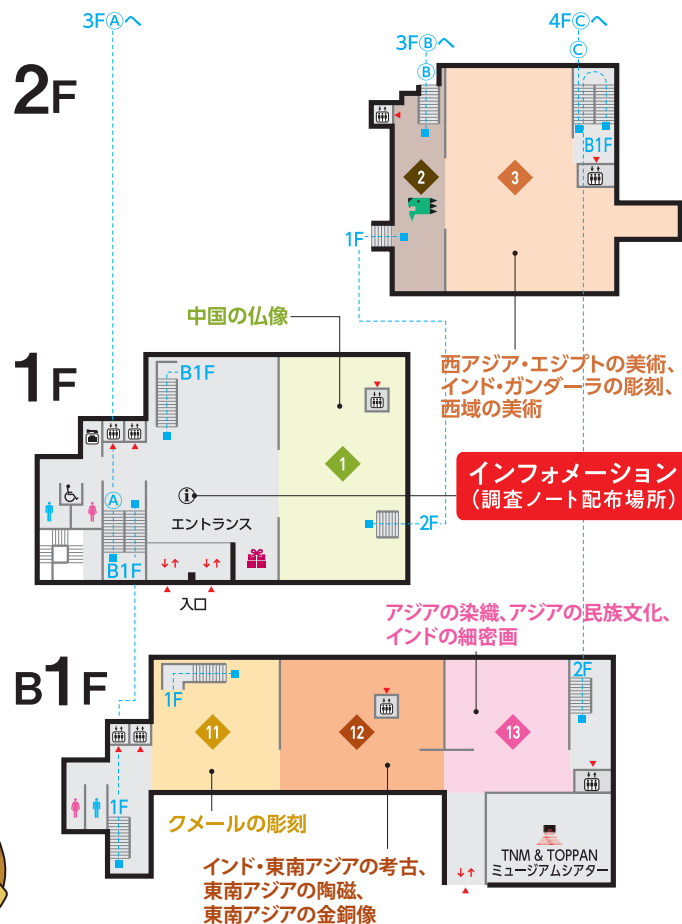
作品情報、展示期間

「発見」にまつわるエピソードなど

研究員のメモ

東洋館の中に3作品の
オリジナルスタンプがあり
ます
ぜひ、展示室をまわって
すべてのスタンプを押し
てみよう!

東洋館
フロアマップ





ペリオが敦煌莫高窟の蔵経洞で発見！

とんこうぼっこうくつ そうきょうどう

2022 年 月 日 ()

東洋館 2 階 3 室

古い掛軸の形式

のれんのように棒を
通したのだろう



めいぶん
銘文を書く欄が空白になっている

あとから供養者の名前を記入できるよう、
あらかじめ空けてあるのだろう

に ぼ ざつりやうぞう
二菩薩立像 (TA-160)
Two Bodhisattvas
五代十国～北宋時代・10 世紀
中国・敦煌莫高窟蔵経洞
1 面 麻布着色 ペリオ探検隊将來品

～ 10 月 23 日 (日) 展示

ポール・ペリオ (1878-1945)
フランスの東洋学者。1908 年に
敦煌莫高窟の蔵経洞でこの絵を発見した。



敦煌莫高窟蔵経洞の中で調査する
ポール・ペリオ

—— スタンプ欄 ——



顔の壊れた部分をのぞいてみると、
黒く焼けた土が詰まっている

顔の表面には金^{きん}鍍^と金^{きん}が残っている
当初は金色に輝いていたのだろうか…

首の底面は塞^{ふさ}がっている
頭と胴体を別々に
つくったに違いない

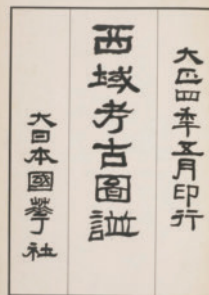
にょらいざうとうぶ
如来像頭部 (TC-456)
Head of a Buddha
3～4 世紀 中国・ホータン
1 個 銅造鍍金
大谷探検隊将來品

～ 10 月 23 日 (日) 展示



『西域考古図譜』

浄土真宗本願寺派第 22 代法主であった大谷光瑞^{おおたにこうずい} (1876-1948) は 1902 年から 1914 年の間にシルクロード探検を行なった。将来品の成果は『西域考古図譜』に掲載されている。



『西域考古図譜』表紙と本作品を紹介したページ
(香川黙識『西域考古図譜』国立情報科学研究所「デジタル・シルクロード」東洋文庫より転載)



ヒゲのたなびく様子から龍は強風のただなかにいるようだが、
まるで動じることなく圧倒的な存在感を見せている
この瓦を連ねた建物はさぞ立派であったことだろう

指先を開き 5 本の爪を見せている
宋時代頃から、龍の格付けが進むなかで、
五爪の龍は皇帝を象徴するものとなった
この瓦もまた、皇帝ゆかりの建物に用いられたのだろう



明時代には、規程によって官民が
琉璃瓦を建物に葺くことは
固く禁じられていた
琉璃瓦…釉薬をかけた瓦

リョウリウモノのきまがわら
緑釉龍文軒丸瓦 (TJ-479)
Decorative Roof Tile with a Dragon
明時代・14～17 世紀 中国
1 個 陶製 高橋由一氏寄贈
～ 11 月 13 日 (日) 展示

画家を魅了した一片の瓦

のちに日本の近代洋画の先
駆者となる高橋由一^{たかはし ゆいち} (1828-
94) は、江戸時代末期 (1867
年頃) に初めての海外渡航と
して清朝の地を訪れた。裏面
には、高橋がこの瓦を南京で
入手したことや異国の文化に
触れたことの興奮が記されて
いる。



緑釉龍文軒丸瓦裏面



いまは茶色っぽく
色あせているが、
もとは紅色だったか



ばん うすちやじ か もんきうけちへいけん
幡 淡茶地花文夾纈平絹・
うすちやじ へいけんめ あ
淡茶地平絹縫い合わせ
(TI-505-19)
Temple Banner
吐蕃～曹氏帰義軍期敦煌・8～10 世紀
中国・敦煌莫高窟
1 旒 平絹、夾纈(絹)
大谷探検隊得來品

9 月 21 日 (水) ～ 12 月 4 日 (日) 展示

文様の輪郭が白く染め残されている
藍や紅など多色だが、
にじみが見られる

莫高窟から似たような幡が
たくさん見つかったいる
この作品も幡の一部であろう
幡…柱や天蓋、堂外に掛け、仏殿を飾る莊嚴具



細い板が包まれている



(参考)「菩薩立像幡」
(TA-159)

※アジアの旅 2022 期間中の
展示はありません

きょうけち 夾纈

文様を彫った 2 枚の板の間
に、布を固く挟んで色を染
め分ける技法。



夾纈部分



全部で 22 種類の裂が使われている

上部に輪っかがついている
ほかにも痕跡があり
これで吊り下げたのだろうか



横幅 270cm で
切られている
当初はもっと
横に長かったの
だろうか

なぜりボン状の結目があるのだろうか
もっと類例を探してみたい

さまざまな裂を三角にし
て連ねている
よく見ると、三角の袋状
に仕立てられていることが
わかる



垂飾部分

すいしよく へいけんあやむけちん ちりめ
垂飾 平絹綾夾織羅裂縫い合わせ (TI-505-50)
Altar Pendants
曹氏帰義軍期敦煌・9～10 世紀 中国・敦煌莫高窟
1 連 平絹、夾織(絹)、擦染(絹)、羅(絹)、緯三枚綾(絹)、
経三枚綾地緯六枚綾文綾(絹)、経四枚綾地緯四枚綾文綾(絹)
大谷探検隊将品

9 月 21 日(水)～12 月 4 日(日)展示



眼を見開き、^{いかく}威嚇の表情を見せる

巨大な耳や角、羽を持った異形の姿で表わされる

唐時代、高貴な人びとの墓に

置かれた^{ちんぼじゅう}鎮墓獸

墓を守るための^{へきじゃ}辟邪

辟邪…魔除けの力を持つ
空想上の動物



^{さんさいあんぼじゅう}
三彩鎮墓獸
(TG-648、TG-649)
Tomb Guardian
唐時代・7～8 世紀 中国
各 1 軀 陶製
横河民輔氏寄贈

～ 11 月 27 日 (日) 展示

^{どうさんさい} 唐三彩

20 世紀初頭、中国国内で鉄道敷設工事が行なわれ、唐時代の皇帝や貴族たちの墳墓が多数発見された。地中から見つかった色鮮やかな^{さんさい}三彩のやきものは、収集家たちの垂涎^{すいぜん}的となった。

建築家^{よこがわたみすけ}横河民輔 (1864-1945) は唐三彩をはじめとする大規模な中国陶磁コレクションを築き、豪華図録『^{おうこうふ}甌香譜』(青山二郎編、1931) を刊行した。



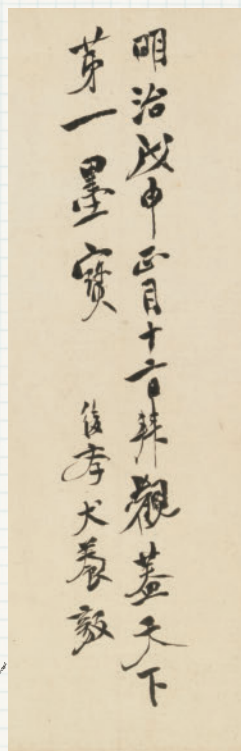
^{さんさいりゅうじへい}
「三彩龍耳瓶」(TG-647)
『甌香譜』より転載

—— スタンプ欄 ——



朱印がたくさん押されている

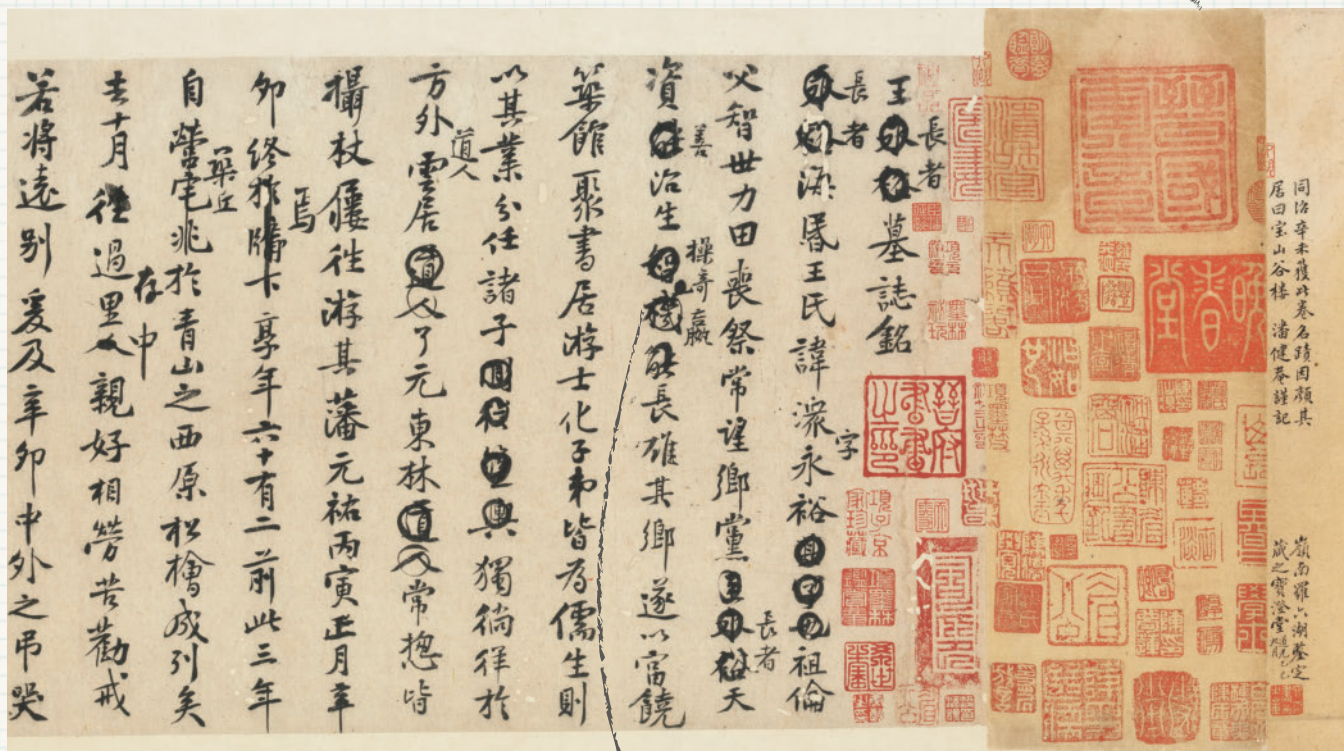
多くの人がこの書跡を鑑賞し、収蔵してきた証だ



(巻末部分)

犬養毅(1855-1932)の跋文がある

中国書画の愛好家であった犬養が「天下第一の墨宝」と鑑賞した際の感動を書き残している



ぞうしとおうしに しほしめいこうかん

行書王史二氏墓誌銘稿卷 (TB-1457) 部分

Gravestone Epitaphs for the Wang Shi Er Family in Running Script

黄庭堅筆 北宋時代・11世紀 中国

1巻 紙本墨書

9月21日(水)～10月16日(日)展示

宋時代の能書、黄庭堅(1045-1105)が親戚のために書いた墓誌銘の草稿

随所の書き直しから試行錯誤の様子がうかがえる、筆者の自然体の字姿だ



龍は、雲を湧き起こし、雨を呼ぶ神獣
決まった形のない雲と一体化させて、
その変化の姿を表現することが重要



ここに描かれる龍は5匹

ただし、同じような図様の5匹を含んだ12匹を描く長巻が、
アメリカのプリンストン大学美術館にある

この画も、もともとはもっと長かったのかもしれない

【重要文化財】

五龍図巻 (TA-363) 部分

Five Dragons

伝陳容筆 南宋時代・13世紀 中国

1巻 紙本墨画淡彩

9月21日(水)～10月16日(日)展示

ちんよう
陳容

13世紀、南宋時代末期に活躍した文人画家。号は所翁（一説に所斎）。嵐を呼ぶ龍の本質をとらえるため、酒を飲み、服装にもかまわず、手に墨を塗りたくって制作にのぞんだ。墨をはね散らかして雲を、口に含んだ墨を噴き出して霧を表現したという。「五龍図巻」は、その陳容の画風をよく



伝える作品。

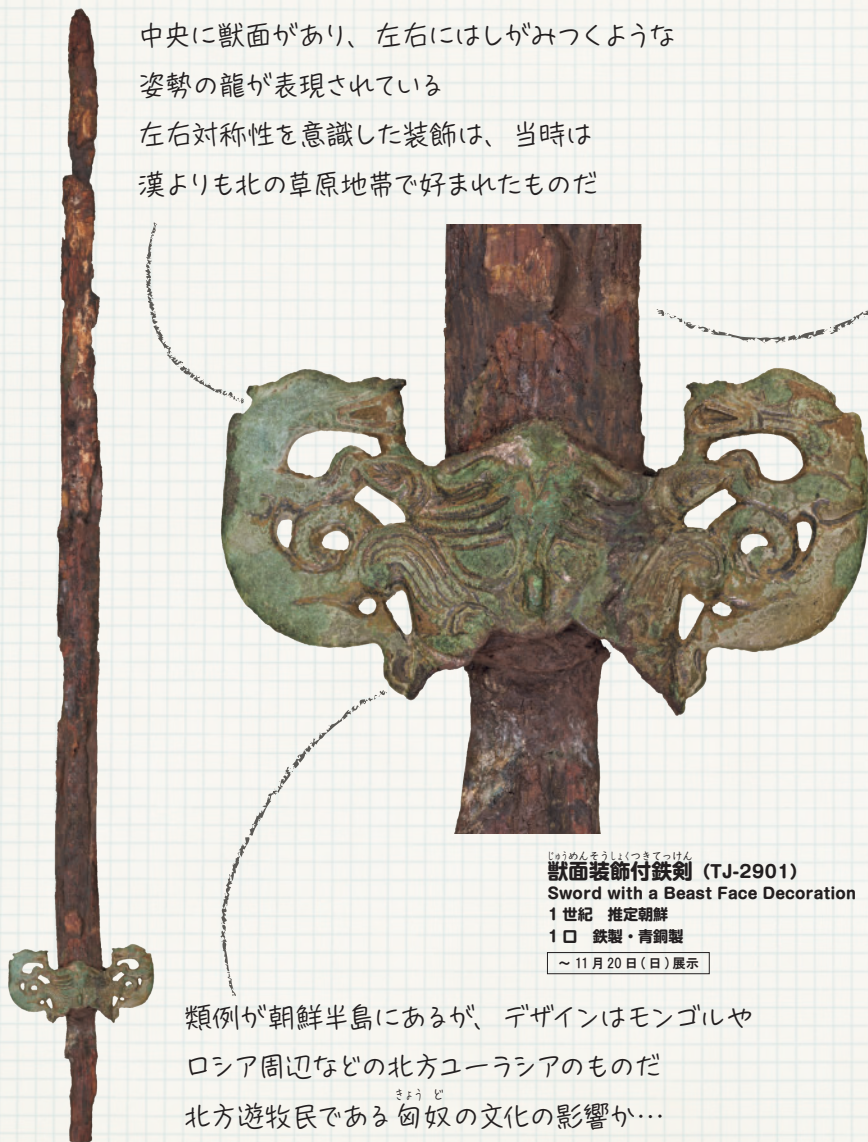
「五龍図巻」におかれた
「所斎」印

—— スタンプ欄 ——



中央に獣面があり、左右にはしがみつくような
姿勢の龍が表現されている
左右対称性を意識した装飾は、当時は
漢よりも北の草原地帯で好まれたものだ

茶色に錆びた鉄剣のようだが、
よくみると表面に木質が残っている
黒い漆の塗膜もあるようだ
立派な鞘におさめられていたらしい



じゅうめんそうしよくつきてつけん
獣面装飾付鉄剣 (TJ-2901)
Sword with a Beast Face Decoration

1 世紀 推定朝鮮

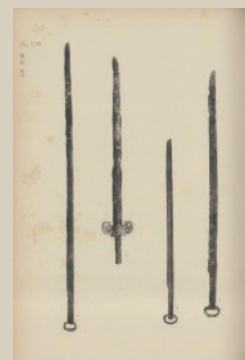
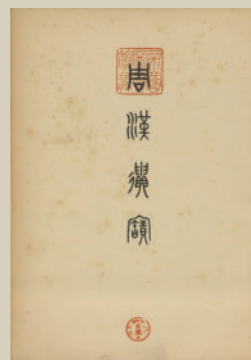
1 □ 鉄製・青銅製

～ 11 月 20 日 (日) 展示

類例が朝鮮半島にあるが、デザインはモンゴルや
ロシア周辺などの北方ユーラシアのものだ
北方遊牧民である匈奴の文化の影響が…

しゅうかん い ほう
『周漢遺宝』

本作品は、1932 年に東京帝室博物館（現 東博）で開催した「周漢文化展覧会」に出品。その図録『周漢遺宝』では、類例が少ない状況にありながら、この獣面装飾がアジア北方民族のデザインであると指摘するなど、東洋文化に対する深い見識が示された。



『周漢遺宝』中表紙と本作品を紹介したページ
(国会図書館デジタルライブラリーより転載)

16 世紀のベトナムで焼かれた茶碗

日本からの注文品と考えられる



【重要美術品】
ベトナムからくさもんちやわん
紅安南唐草文茶碗 (TG-2238)
Bowl
16 世紀 ベトナム
1 口 陶製
岡野繁蔵旧蔵
～ 2023 年 4 月 2 日 (日) 展示

白化粧をほどこして、
赤と緑の上絵具で文様を描く
その温かみのある風情が
日本の茶人に好まれた

付属品が伝える茶碗の由来

日本の茶の湯の世界では、道具を大切に扱い、後世に伝えてきた。
貴重な裂で道具を包む袋 (仕覆) を仕立て、二重、三重に箱をつくる。
箱には所蔵者や縁のある人物が銘や書付を残すこともある。



紅安南唐草文茶碗の外箱・中箱・仕覆



中箱蓋裏
(箱書きは裏千家 14 代無限斎 (淡々斎) による)

アジア大発見！ 調査マップ

